

## コラム 緑化植物 ど・こ・ま・で・き・わ・め・る

### オトコヨモギ (*Artemisia japonica* Thunb.)



入山義久 (雪印種苗株式会社北海道研究農場) Yoshihisa.Iriyama@snowseed.co.jp

「郷土には郷土植物を！」と題し、1974年に川端はヤマヨモギ (*A. montana* Pamp., 別名: オオヨモギ, エゾヨモギ) を含む幾つかの「郷土植物」の緑化事例を発表した<sup>3)</sup>。同年、堀江も崩壊地や林道法面などの初期導入適植物として、ヨモギ (*A. princeps* Pamp.) およびオトコヨモギ (*A. japonica* Thunb.) などのヨモギ類を挙げた<sup>2)</sup>。当時の「郷土植物」は、「外来植物」の対義語として使われているが、現在と同様に、当時も種子や苗木の大量入手が困難であることが、「郷土植物」が緑化工に導入されることの少ない原因とされている。

現在、緑化用のヨモギ類の種子は、種子が安価で大量供給が可能なることから、海外からの輸入種子に依存している。検疫統計の資料では、2002年に12.8t、2003年に26.7t、2004年に25.4tのヨモギ類の種子が海外から輸入され、主な輸入先は中国と韓国であった。今回紹介するオトコヨモギは頭花や種子の形状で、ヨモギやヤマヨモギとの識別が容易である。

形態的特性<sup>6)</sup>を以下に示した。まずヨモギおよびヤマヨモギは地下茎を有するのに対し、オトコヨモギは地下茎を欠くことが大きな特徴である。オトコヨモギの草丈は1.4mで、これはヨモギより大きくヤマヨモギより小さい。また茎中部の葉はへら状くさび形で長さ4~8cm、頭花は長さが2mm、幅が1.5mmであり、葉および頭花は他2種に比較して小さく、全体的にコンパクトな印象を受ける。

3種の分布を比較すると、ヨモギは本州~沖縄、朝鮮などの南方に、ヤマヨモギは北海道~本州近畿以北、南千島、樺太などの北方に分布し、これに対しオトコヨモギは北海道~沖縄、朝鮮・中国、フィリピン、インド、アフガニスタンなど、広域に分布するとされている<sup>6)</sup>。また生育地を比較すると、ヨモギは路傍、空地、荒地、畑地、樹園地などに生育するのに対し、オトコヨモギはこれらの場所以外に海岸にも生

育するとされており<sup>1)</sup>、塩害や乾燥害など厳しい環境条件下でも生育できる高い環境適応性を有することが示唆される。

中山<sup>5)</sup>は、オトコヨモギの種子特性に関し、採播き実験では80%以上の発芽率を示し、僅かな個体に見られる内的休眠性も冷湿処理を経ると失われることを明らかにしている。筆者らの経験では、オトコヨモギ種子の圃場における種子生産は比較的容易であり、種子の100粒重は $11 \pm 2$  mg、発芽試験の結果では、平均発芽日数は $5.0 \pm 1.0$  日、 $93.5 \pm 3.8\%$ と極めて高い発芽率が得られた。また種子を4年間低温保存しても発芽率の低下は全く見られず、長期間の種子保存が可能であった。数年間分の必要量を一度に大量に採種し、保存しておくことが可能なため、種子コストの低下も期待できる。なお種子生産圃場で大規模に種子増殖する場合は、オトコヨモギとカワラヨモギ (*A. capillaris* Thunb.) の種間雑種の存在も報告されているため<sup>4)</sup>、隔離措置は必須である。

オトコヨモギは、地下茎を持たない株型であることが唯一の欠点である。しかし、法面などを単一の植物で緑化することは殆どなく、ヨモギやヤマヨモギと混播、または地下茎や匍匐茎を有する他の草種と混播することでこの問題は回避できる。緑化用草種には、手軽に緑化工事に利用でき、かつ移入種問題を考慮し国内産であることが望まれているが、オトコヨモギはこれに適すると考えられる。

#### 引用文献

- 1) 浅野貞夫 (1995) 原色図鑑/芽ばえとたね, 全国農村教育協会, p.139.
- 2) 堀江保夫 (1974) 郷土植物の緑化工への適用, 緑化工技術, 2(1): 17-21.
- 3) 川端勇作 (1974) 郷土には郷土植物を, 緑化工技術, 2(1): 12-16.
- 4) 河野昭一・長井幸雄・星谷-牛田誠子 (1995) カワラヨモギとオトコヨモギ (キク科) の自然雑種集団とその生物学的位置, 植物地理・分類研究, 42(2): 133-153.
- 5) 中山修一 (1985) 北海道に分布するヨモギ属の人里植物4種の種子散布と発芽特性, 植物地理・分類研究, 33(1): 27-39.
- 6) 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫 (1981) 日本の野生植物 草本II 合弁花類, 平凡社, pp.168-174



左: オトコヨモギ, 右: ヤマヨモギ



オトコヨモギ



開花期



花



種子